

北海道幕別町 第三セクター等経営健全化方針に基づく取組状況(令和2年度)

1 法人名:株式会社忠類振興公社

2 経営健全化方針を策定した理由:

平成28年度決算において、負債合計(58,176千円)が資産合計(41,943千円)を上回り、債務超過状態であったため、平成30年度に方針を策定し、町HPにて公表した。

3 財政的リスクの状況

単位:千円

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (見込)	令和4年度 (見込)
債務超過額(負債-資本)	-609	16,233	17,173	13,325	6,612	3,007	-164	-3,335
損失補填、債務保証及び 短期貸付けの合計額(A)	13,200	30,000	30,000	20,000	18,000	18,000	17,000	15,000
標準財政規模(B)	9,628,362	9,476,984	9,346,750	9,366,627	9,489,108	9,814,395	9,800,000	9,800,000
実質赤字比率(% ((A)/(B)))	0.14%	0.32%	0.32%	0.21%	0.19%	0.18%	0.17%	0.15%

4 主な取組状況

(令和3年3月31日現在)

民間ホテル事業者である株式会社アンビックスの専門的ノウハウの活用を継続し、「ゆり根」や「どろぶた」といった地域の特産品を活用したレストランメニューの提供や道の駅での新たな商品開発、白銀台スキー場やナウマン公園などの観光資源と連携した宿泊プランの提供などによる売上の増加、またグループ企業のスケールメリットを活かした仕入れの効率化などによる経費節減などに取り組んだ。

また、幕別町からの運転資金(18,000千円)の貸付けを継続するとともに、アルコ236の機械室のポンプ取替えや道の駅・忠類のエアコン改修等により施設の安定的な維持管理に加え、アルコ236の客室改修等により施設の魅力向上にも取り組んだ。

取組の結果、令和2年度決算では、コロナ禍における厳しい経営ではあったが、当期純利益が3,605千円となり、経営面での改善が見られた。

なお、今後とも、コロナ禍における来客者の恒常的な減少が予想されるが、次年度に宴会場を客室4室に改修するとともに、グランピング施設を整備するなど、コロナからの回復期に向けた各種事業に今後取り組むとともに、老朽化設備の更新を計画的に進め、より一層の魅力向上に取り組む予定である。

5 法人の財務状況

貸借対照表から

項目	金額(千円)							
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
資産合計	52,117	41,943	25,779	21,984	26,419	26,544		
(うち現金・預金)	(27,097)	(24,968)	(11,201)	(6,874)	(14,504)	(13,874)		
(うち売上債権)	(2,098)	(2,034)	(606)	(791)	(941)	(1,103)		
(うち棚卸資産)	(8,201)	(6,816)	(2,360)	(2,400)	(2,379)	(3,346)		
負債合計	51,508	58,176	42,952	35,309	33,031	29,551		
(うち当該地方公共団体からの借入金)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
純資産合計	609	△ 16,233	△ 17,173	△ 13,325	△ 6,612	△ 3,007		

損益計算書から

項目	金額(千円)							
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
経常収益	212,160	204,771	86,490	89,521	93,173	82,623		
経常費用	227,731	221,407	85,562	85,467	86,255	78,811		
経常利益(損失)	△ 15,571	△ 16,636	928	4,054	6,918	3,812		
特別利益	1,202	0	3,548	0	0	0		
特別損失	0	0	5,209	0	0	0		
当期純利益(税引前)	△ 14,369	△ 16,636	△ 733	4,054	6,918	3,812		
当期純利益(税引後)	△ 14,575	△ 16,842	△ 939	3,848	6,712	3,605		